

# はじめまして。

平成 29 年度からお世話になります。八嶋佐紀子（やしまさきこ）と申します。

出身は東京ですが埼玉在住で、毎日電車を乗り継いで神奈川に来ております。なかなか神奈川の土地勘がつかめず、小田急線もこの前初めて乗りました。これから馴染みの地になるのだろうと思いつつ日々電車で揺られています。

私がこのでんでん虫に出会ったのは、大学の研究がきっかけです。大学の先生から発達心理学を学ぶ途中、音楽療法に触れ、その時に音楽療法に興味を持ちました。卒論研究と関連して不器用ながら音楽療法士の先生のもとで学ぶ機会があり、その中で渡邊先生にご縁があって声をかけていただきました。

音楽療法についてはまだまだひよっこで右も左もわからないのですが、元気に明るく皆さんと一緒に楽しく過ごせるように日々頑張ります。どうぞ宜しくお願いします！

## そして、さようなら...

でんでん虫では三年間お世話になりました。一年目と二年目は外部でのお仕事が多かったのですが、三年目によくあゆ工房でのお仕事が増えました。毎週火曜日のあゆ音楽では、皆さんと踊ったり合奏したりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。この三年間は私にとって学ぶことが大変多く、とても充実した日々を送らせていただきました。大変感謝しております。本当にありがとうございました。

小沼 由起子

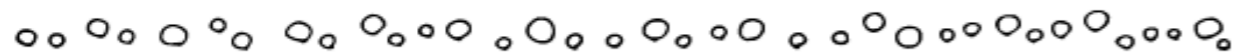


この度、入籍を機に新しい事に挑戦したく退職させて頂く事になりました。目の回る様な日々の中、いつの事だったか分からなくなる程あつという間で濃密な 10 年とちょっとの歳月でした。私とでんでん虫の出会いは、でんでん虫に通っている子の親御さんから「先生！うちの子が行ってるでんでん虫の先生たちと雰囲気似てるんだよね。見学来てみたら！」という、突然のお誘いから始まりました。パワフルで繊細な音楽に目を丸くしつつ、子ども達の楽しそうな様子にすごいな～と驚いていたのを覚えています。

働き始めてすぐから関わってきた子は既に社会人です。ここまで来るのにご家族の皆さんが様々な葛藤の中で、安心したり不安になったり、迷ったり、鋭くなったり柔らかくなったりしてこられたことと思います。その中で自分がどれだけ関わって来られたのか思い返し、本当に沢山の事を経験させて頂き、沢山の思いを頂いたと感謝しております。「でんでん虫」だから経験できた事も沢山ありました。これからは活かしていきたいと思っております。

長い間、ありがとうございました。

木下 さつき



社会福祉法人なごみ福祉会 療育相談 でんでん虫

We love music  
Let's enjoy music together



(H29.5.28 発行)

# 35 歩

〒214-0012 川崎市多摩区中野島 4-3-28 TEL : 044-911-2612 FAX : 044-911-0462

Mail : dendenmushi@nagomi-fukushi.or.jp

## みなさん、お元気ですか？

平成 28 年度は、昭和 57 年に『親子の寺子屋でんでん虫の家』が生田で活動を始めて 35 年目、『療育相談でんでん虫』としてなごみ福祉会の公益事業に位置付けられて 11 年目の年でした。

2 月には多摩市民間のギャラリーで法人の事業所が合同の作品展を行い、それぞれの事業所が工夫して日頃の様子が思い浮かぶような作品展示をしました。『でんでん虫』は現在の様々な活動の紹介と一緒に、この 35 年間の『お便り』を展示させていただきました。この『お便り』に思いがけず多くの方が興味深く目を止めて下さり、「懐かしかった」「いろいろ思い出した」「こういう歴史があったんですね」など温かい反響をいただきました。



35 年の間には福祉の制度や保育園・学校・地域の取り組みに多くの変化がありました。その中で『でんでん虫』は「断らない、待たせない、障害の種別・軽重を問わない」という発足時からの基本姿勢を継続しながら、「障がいの有無にかかわらず地域の中でいきいきと、あたりまえに」を実践し、発信してきたと思います。

平成 28 年度は外来療育を利用する方々が 180 名を超し、保育園・学校・福祉施設等への支援は法人内外を含め 70 か所を数え、目の前の依頼に出来る限り応えていくという『でんでん虫』の姿勢で、本当にたくさんの実践を積み重ねてきました。

特に、27 年度に力を入れた「施設支援」の広報の輪が少しずつ広まってきたと感じたことは 28 年度の成果でした。

新たに連携をした福祉施設への音楽療法を通じた関りは、利用者の方々の「日中の生活」をいかにいきいきとした時間にしていくか、そこに関わるスタッフの意識の大切さ、チームワークの大切さをたくさん勉強した 1 年だったと思います。

学校支援も平成 9 年に地域療育等支援事業として取り組み始めてから、毎年積み重ねてきたことで、先生方の異動があっても引き継がれ、連携が深まり、「日々の現場での対応にどう活かすか」という視点でお互いが協力して取り組むことが出来てきたと実感しています。

また、これまでの療育のノウハウを活かし、市民館の親子講座、民生委員児童委員さんとの連携、横浜国際福祉専門学校への講師派遣、自立支援協議会への参加等、さまざまな地域の資源との連携も回を重ねてきました。毎年少しずつですが、確実に『顔の見える関係』を増やしていくことが、『地域の中であたりまえに』を実践するために大切な力になると思っています。

地域療育事業部 療育相談でんでん虫 代表 渡邊 紀子

# 2016年度 実績報告



2016年度も外来療育のほかに、新規の作業所などの施設支援も増えました。利用者・児童・生徒の皆さんや職員の方々との連携も多くなり、地域での支援や豊かな生活について共に考えながら取り組んでまいりました。

## ① 療育プログラム別報告

	提供プログラム	利用人数	年間延べ件数
1	外来療育(個別・少人数グループ)	92	1985
2	健康体操(I・II)	14	266
3	YYプロジェクト	10	210
4	太鼓クラブ	15	180
5	土曜親子リズム	4~8	77
6	あみんこサイエンスクラブ	11~15	156
外来合計			2874

## ② 夏期プログラム

提供プログラム: リズム・木工・和太鼓・フラダンス 参加...28組 延べ52名

## ③ 法人内他部署との連携: 音楽活動、職員研修等

合計...485回

部署	実施回数	部署	実施回数
あゆ工房	47	北烏山なごみ保育園	38
夢花工房	109	児童デイサービスドリーム	97
なごみ保育園	43	ドリーム2	5
太子堂なごみ保育園	22	ここから(児童発達・放課後等デイサービス)	88
梅丘なごみ保育園	24	子育て支援センターページブル親子リズム	12

## ④ 施設・学校等団体への支援 — 音楽療法、職員研修等

○施設: 15箇所 計164回

○小中学校: 34校 計102回

(多摩区15校、宮前区5校、麻生区5校、高津区5校、中原区2校、川崎区2校)

○その他 学校等 公演・講義・教員、保護者向け研修等: 11箇所 計23回

## ⑤ 行事・交流プログラム

6月 夢花感謝祭に参加 10月 あゆ祭りに参加 11月 チャリティーコンサート Happy Notes vol.23

12月 第35回でんでん虫クリスマス会の開催 12月高津小学校共生コンサート

H17. 1月 ここから祭り参加 1月 実践報告会 2月 なごみ福祉会合同作品展

3月 第23回ポプラの音楽会の開催

## ⑥ 職員研修 9月 日本音楽療法学会参加 3月 日本発達心理学会参加

(栗原 敦子)

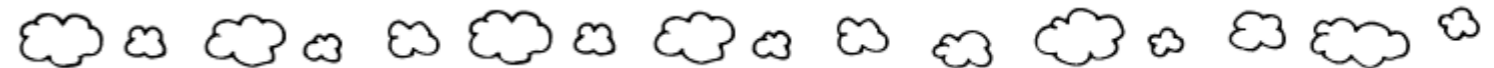
# ここから

児童発達支援  
放課後等デイサービス



昨年度に引き続き、北烏山にある「児童発達及び放課後等デイサービスここから」で音楽療法を毎週1回実施しました。

児童発達デイでは、未就学児の小グループを行いました。からだを動かすあそび、くすぐりなどのふれあいあそびや太鼓、ラップなどの楽器体験を積み重ねました。また、パネルシアターを観て楽しむような活動を組み込んで行いました。音楽の中で遊ぶことを通して、アイコンタクトや注視するなど相手を意識すること、刺激の発信源に注目する力などがのびてきたと思います。特に『野菜のうた』がお気に入り、今では歌が始まるととたんにニコニコと笑顔になって一緒に手遊びするようになりました。



放課後等デイサービスでは、小学校低学年グループ、小学校中学年グループ、中学生グループの3つに分けて行いました。小学校低学年のグループでは『大工のキツツキさん』が大人気で、【サッ!ハッ!ホッ!】の決め台詞になるとみんな大はりきりです!徐々に集中力ものびてきて相手の音を聴き合う力がでてきました。

小学校中学年のグループでは、最初、音楽や楽器にはほとんど興味を示さなかったお子さんが、お気に入りの楽器を見つけ、自分から楽器を手に取って笑顔と一緒に鳴らすという大きな変化がありました。

そして、中学生のグループは、『ウィリアムテル序曲』『アイネクライネナハトムジーク』『ファランドール』『カルメン』など、力強い合奏曲が大のお気に入りです。彼らの迫力のある演奏を、他のグループの子どもが「かっこいい!」「すごいね!」など憧れと感心した眼差しで、セッションの部屋をのぞきこんだり、廊下にもれる音を聴いたりしています。

そんな様子から「もっと他のスタッフや子どもたちにも聞いてもらいたいね」という声があがり、12月の児童デイサービスここからのクリスマス会で発表しようということになりました。

当日は緊張から表情がかたくなり、そわそわと落ち着かない様子で、本番直前は緊張がピークに達し怖気づく場面もありました。いざみんなの前で演奏を始めると、緊張しながらも徐々に演奏に集中し、演奏後はみんなからの大拍手に満足げな表情を浮かべていました。

みんなの前での演奏を体験した中学生グループは、その後のセッションで合奏へのモチベーションが高くなったように思います。発表の場面で得た達成感と自信を、次につなげて、また一歩ずつ積み重ねていけたらと思っています。

(林谷 嘉子)

